

速報！2012年度国公立大志願状況

河合塾

2012/2/3

国公立大の出願が2月1日に締め切られた。文部科学省より発表された同日15時現在の集計では、志願者総数は478,624人で、募集人員に対する志願倍率は前年同時点の4.83倍から4.75倍へとダウンした。

以下、発表された国公立大の出願状況について概況をまとめた。

■国公立大志願者数は前年同時点から約7千人減

確定者数は17日発表

国公立大の2次試験志願者数は、出願最終日となった2月1日15時現在で478,624人となっている。前年最終日同時点を7,337人下回っており、前年比98%と微減の状況である。募集人員に対する志願倍率は前年同時点の4.83倍から0.08ポイントダウンの4.75倍となった【表1】。

【表1】国公立大志願状況(出願最終日15時現在)

		募集人員		志願者数 (最終日15時現在)				志願倍率 (最終日15時現在)	
		11年度	12年度	11年度	12年度	前年差	前年比	11年度	12年度
国立	前	64,111	64,582	200,856	202,547	+ 1,691	101%	3.13	3.14
	後	16,536	16,147	157,532	153,757	- 3,775	98%	9.53	9.52
	計	80,647	80,729	358,388	356,304	- 2,084	99%	4.44	4.41
公立	前	14,556	14,584	57,927	56,759	- 1,168	98%	3.98	3.89
	後	3,513	3,542	43,763	41,183	- 2,580	94%	12.46	11.63
	中	1,867	1,898	25,883	24,378	- 1,505	94%	13.86	12.84
	計	19,936	20,024	127,573	122,320	- 5,253	96%	6.40	6.11
国公立	前	78,667	79,166	258,783	259,306	+ 523	100%	3.29	3.28
	後	20,049	19,689	201,295	194,940	- 6,355	97%	10.04	9.90
	中	1,867	1,898	25,883	24,378	- 1,505	94%	13.86	12.84
	計	100,583	100,753	485,961	478,624	- 7,337	98%	4.83	4.75

※文部科学省資料より(独自日程で実施する大学は表に含まない)

日程別にみると、国公立大入試の中心である前期日程の志願者数は、523人増と若干ではあるが増加している。国公立大の志願者数は、景気の低迷を背景に2010・2011年度と2年連続で増加していた。その人気は今春入試においても継続しているとみてよいだろう。

一方、後期日程は6千人以上の志願者減少となっている。志願者減少の要因の1つは、難関国立大の一部で後期日程が廃止されたことによる。今春入試では、東京工業大(第2～6類)、大阪大(工)、神戸大(経営)で後期日程が廃止される。昨年、これら3大学の該当学部の後期志願者数は4,350人であった。なかでも東京工業大、大阪大は、当該大の志望者はもちろん、東京大、京都大の前期日程志願者の後期併願先としても人気が高い。両大学の後期廃止に伴い、他大学や他学部へ志願を切り替える者もいると思われるが、すでに旧帝大を中心とした難関大理工系学部で後期日程の実施は数少ない。結果として後期日程の受験自体をとりやめる受験生が前年より増加したと思われる。

次に、国立大と公立大に分けてみると、公立大で志願者減少が目立つ。これは、一部の大学で極端な志願者の減少が見られるためである。昨年および一昨年の入試では、人気の医療系の単科大が多いことや、国立大に比べて少数教科で受験可能な大学が多く都市部の私立大型生を取り込んだことから、志願者を増加させた大学が多かった。しかし、今春入試ではそうした反動が表れて数百人志願者を減らしている大学が散見される。また、近年の新設大や2・3年前に相次いで登場した私立大から公立法人化した大学の人気が落ち着きつつあること、公立大志願者数の約1割を占める大阪府立大が1割ほど志願者数を減少させていることも大きい。大掛かりな学部再編で注目された大阪府立大は、工学域、地域保健学域は堅調に志願者を集めたものの、現代システム科学域がやや低調である。

確定志願者数は2月17日に発表される予定である。昨年はこの時点から確定までの間に、志願者数が約1万8千人増加した。今年度も今回の集計では反映されていない締め切り直前の出願者が相当数いると考えられ

る。最終的な志願者数は、昨年と同程度増加することが見込まれ、49万人～50万人の間に落ち着きそうだ。

■学部系統別の志願状況

文低理高が鮮明、医療系の人気高い

次に学部系統別の動向についてみる。【表2】は国公立大の前期日程の志願状況を、文部科学省が分類している学部系統別に集計したものである。系統の人気は昨春入試に続いて文低理高が鮮明である。

「人文・社会」学系は、前年から4千人以上減少している。なかでも、法学系、経済系といった社会科学系で志願者減少が目立つ。「教員養成」学系は、課程別に見ると、教員養成課程は比較的堅調な人気を示しているものの、総合科学課程で志願者の減少が目立っている。

一方、理系の各系統は人気の上昇が感じられる。「理工」学系が前年比102%、「農・水産」学系が前年比104%、「医・歯」学系が前年比106%、「薬・看護」学系が前年比103%と、いずれも志願者増となっている。

特に「医・歯」「薬・看護」学系は、昨春入試においても資格志向を背景に志願者の増加が目立ったが、今春入試においても引き続き高い人気を示している。医学部は2008年度以降、医師不足に伴う入学定員増が繰り返し行われており、今年度も国公立あわせて66名の増員となる。こうした定員増の効果に加えて、センター試験の平均点アップも難関系統である医学科への出願を後押ししているようだ。

薬学部は1割以上の志願者増加となっている。薬剤師養成課程が6年制化されて以降、受験生からはやや敬遠された学系となっていたが、昨春入試あたりから急速な人気の回復が感じられる。また、ここ2年大幅な志願者増加が見られた「看護・保健」学系は、前年並みの志願者数を維持しており人気の継続が感じられる。

■難関国立大 大学により志願者増減に差

【表3】は難関10大学の志願状況である。前年度の志願者数は前年同時点の数となっている。

【表3】難関国立大の志願状況

大学名	前期		前期比	後期		後期比
	今	昨		今	昨	
北海道	5,390	5,664	95%	4,354	4,204	104%
東北	4,945	5,332	93%	1,294	1,188	109%
東京	9,936	9,706	102%	3,220	2,960	109%
東京工業	3,981	3,584	111%	563	2,305	24%
一橋	2,961	3,076	96%	1,370	1,481	93%
名古屋	5,332	5,341	100%	63	41	154%
京都	8,179	8,278	99%	-	-	-
大阪	7,142	7,421	96%	5,114	6,442	79%
神戸	6,092	6,458	94%	5,131	6,033	85%
九州	5,443	5,099	107%	3,270	2,874	114%
難関10大計	59,401	59,959	99%	24,379	27,528	89%

※文部科学省資料より
(数値は昨今とも出願最終日15時時点の数)

【表2】国公立大(前期日程) 学部系統別の志願状況

系統	募集人員		志願者数 (最終日15時現在)			志願倍率 (最終日15時現在)	
	11年度	12年度	11年度	12年度	前年比	11年度	12年度
人文・社会	21,461	21,273	72,127	68,088	94%	3.36	3.20
理工	27,263	27,409	79,443	81,102	102%	2.91	2.96
農・水産	4,693	4,892	15,341	15,881	104%	3.27	3.25
医・歯	7,151	7,173	29,186	30,842	106%	4.08	4.30
医	6,598	6,620	27,163	28,711	106%	4.12	4.34
歯	553	553	2,023	2,131	105%	3.66	3.85
薬・看護	3,528	3,616	12,337	12,744	103%	3.50	3.52
薬	744	754	2,724	3,025	111%	3.66	4.01
看護・保健	2,784	2,862	9,613	9,719	101%	3.45	3.40
教員養成	9,377	9,381	28,226	27,876	99%	3.01	2.97
その他	5,194	5,422	22,123	22,773	103%	4.26	4.20
合計	78,667	79,166	258,783	259,306	100%	3.29	3.28

※文部科学省資料より(数値は昨今とも出願最終日15時時点の数)

難関10大学全体では、前期日程は558人減(前年比99%)と前年並みに落ち着いている。

東京大は前年比102%と志願者が増加している。理科一類と理科二類は、すでに昨年の確定数を400人近く上回っている。また、昨年志願者が大幅増となった文科一類は、法学系の不人気にもかかわらず昨年並みの志願者を集めている。

今春入試で大幅な入試改革を実施して、その動向が注目された東京工業大は、理系人気も追い風となり、志願者数は約1割増加している。

対照的に北海道大、東北大、神戸大で志願者の減少率が高い。北海道大、東北大は社会科学系学部が低調である。神戸大は、昨年志願者が1割以上増加した反動だろう。

後期日程は冒頭で述べたとおり、東京工業大(第2～7類)、大阪大(工)、神戸大(経営)の後期廃止の影響により、難関10大学全体では約1割の志願者減となっている。一方、後期を継続している大学・学部は志願者の増加が目立つ。東京大は約1割の志願者増となっているほか、大阪大(理、基礎工)なども従前の予想通り大幅な志願者増加となっている。

なお、最新の大学別の志願状況は河合塾入試情報サイト Kei-Net(※)にまとめているので、ぜひご活用いただきたい。

(※<http://kaisoku.kawai-juku.ac.jp/shutsugan/>)